九州医療専門学校　歯科衛生士科

科目名	歯科衛生士概論	学年	1　年
担当者		期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2　時間　×　8　回	専任・兼任	専任
実務経験			

一般目標（GIO）

保健・医療・福祉に関わることの意義を見つけ、専門職として必要なことや対象者のニーズの把握、倫理的な 視点かつ科学的根拠をもち歯科衛生活動を展開するために必要とされる専門知識や技術ならびに態度を身につける。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					歯科衛生学とは	歯科衛生の活動の対象や領域を理解する
2					歯科衛生の歴史	歯科衛生の誕生から歯科衛生の発展、業務について理解する
3					歯科衛生活動のための理論	歯科衛生の考え方や科学的思考を知ることができる
4					歯科衛生過程①	歯科衛生過程の活用を理解する
5					歯科衛生過程②	歯科衛生過程の流れを理解する
6					歯科衛生士法と歯科衛生業務	歯科衛生士法や業務を述べることができる
7					歯科衛生士と医療倫理	理論の必要性、インフォームド・コンセント、セカンドオピニオンを述べることができる
8					歯科衛生士の活動と組織	歯科衛生活動の場、組織を述べることができる
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	###	最新　歯科衛生士教本　歯科衛生学総論	

九州医療専門学校　歯科衛生士科

科　目　名	医療倫理学	学　　年	1　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	2 時間×　　8 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	1982年4月から1994年3月まで、大学文部教官として教育・臨床・研究に携わった。さらに、1994年4月から2017年3月まで、県の公衆衛生行政に携わった。		

一般目標（GIO）

「倫理学」は、私たちが一人の人間として社会の中でより良く生きてくための必修科目です。そのことを理解した上で、医療倫理に焦点を絞り、その成り立ちや基本的な考え方について学習します。
また、２０世紀後半の医療技術の急速な進歩は新たな社会問題を引き起こしました。その中からいくつかの事例について、みんなで一緒に考えてみましょう。
講義では、毎回テーマを出しますので、あなたの考えをレポートとして提出していただきます。
倫理学では、正解が一つとは限りません。人それぞれ社会背景や立場が異なれば様々な意見が出されます。しかし、正解を求めて考えることそのものが「倫理学する」ことであり考え続けることに意義があります。
私たちが、行動を起こす時、何かを考える時、必ず「倫理学する」習慣を身につけましょう。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOS）
1					倫理学すること	「倫理学する」習慣の必要性を理解する。
2					社会と倫理	社会と倫理の基本的関係について学習する。
3					正義について	正義のパターンを理解し活用できるようになる。
4					患者中心の医療とは	生命倫理の四原則について学習する。
5					インフォームド・コンセン	成り立ちと意義について理解する。
6					インフォームド・コンセン	具体的な事例について学習する。
7					生殖医療と倫理	新型出生前診断について考える。
8					終末期医療と倫理	延命治療について考える。
9					テスト	
10						
11						
12						
13						
14						
15						

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	50%	医歯薬出版　歯科医療倫理第2版	医療倫理学のABC　第４版（メヂカルフレン
平常点	%		ふだんづかいの倫理学（平尾昌宏、晶文社
レポート	50%		
	%		

～10：30）　　2限目（10：40～12：10）　　3限目（13：00～14：30）　　4限目（14：

九州医療専門学校　歯科衛生士科

科　目　名	歯科臨床概論	学　　年	1　　年　　期生
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	2 時間×　　8 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	大学での学生教育経験を有する教員が、基本的な歯科の知識と、歯科衛生士の役割に関する授業を行う。		

一般目標（GIO）

【概要】歯科衛生士として、保健・医療・福祉に関わることの意義を知る。また、専門職として求められていること、歯科衛生士業務の重要性を学び、今後の専門的授業に向けての基礎知識を習得する。

【目標】・一般的な歯科臨床の流れ、ならびに歯科衛生士の業務内容の要点を知る。

・歯科専門領域の基本的用語を学び、歯、口腔の健康と疾患、異常について理解する。

・多職種と連携して医療を行う重要性、ならびに医療人としての心構えを身につける。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					歯科診療とは	社会に求められている歯科の役割について説明する。
2					歯科診療所・歯科診療所における業務(和田)	歯科衛生士の役割およびプロフェッショナリズムについて説明する。
3					ライフステージと歯科診療・歯科診療で行うこと	各ライフステージにおける歯科の関わり方を列記する。
4					小児歯科・矯正歯科（御手洗）	小児に対する保健指導や診療の特徴について説明する。不正咬合の特徴、矯正装置の必要性ならびに
5					歯科保存	う蝕の発生要因と発生機序を説明し、歯科保存分野における様々な治療方法を分類する。
6					歯周治療（御手洗）	歯周疾患を分類し、歯周疾患の発生要因とリスクファクターを列挙できる。
7					口腔外科・歯科補綴（御手洗）	口腔外科分野での治療の流れを記述する。歯科補綴の概要、固定性ならびに可撤性補綴装置の治療
8					障害者歯科・高齢者歯科（御手洗）	スペシャルニーズが必要な患者の治療の重要性と、医療人として必要な配慮を述べる。高齢者の口腔衛
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	医歯薬出版株式会社「歯科衛生士のための歯科臨床概論」	クインテッセンス出版株式会社「日常臨床＆チーム医療に活かせる 歯科衛生士臨床ビジュアルハンドブック」
	%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

九州医療専門学校　歯科衛生士科

科　目　名	保存修復学	学　　年	1　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	2　単　位	講義　・　実習	講義・実習
時間数・授業回数	2時間×15回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	大学歯学部での学生への講義、実習、大学病院での歯科治療の経験がある。		

一般目標（GIO）

本科目は、患者QOL向上のために残存歯の機能回復および審美性回復を目的とした保存修復治療の実践能力を習得するために、講義および模型実習を通じてその内容を理解し、チームアプローチを実践するために必要な知識および能力を身につける。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					歯の硬組織疾患の種類と病態 窩洞と保存修復治療	保存修復学で扱う疾患を説明する。 う蝕の発症要因と進行を説明する。 歯の欠損の修復方法を説明する。
2					保存修復治療の概要・準備 歯の切削・窩洞形成 歯髄の保護	歯の修復に用いる器材を説明する。
3					保存修復法の種類 直接法修復　コンポジットレジン修復　セメント修復	直接法修復の種類を列挙する。 コンポジットレジン修復、グラスアイオノマーセメント修復の特徴、手順を説明する。
4					間接法修復 インレー、アンレー修復 ベニア修復	間接法修復の種類を列挙する。 各種インレー修復の特徴、手順を説明する。 ベニア修復の適応症、禁忌症、手順を説明する。
5					間接法修復 合着材、接着材 歯のホワイトニング	合着材、接着材の特徴、使用法を説明する。 ホワイトニングの特徴、手順を説明する。
6					模型実習 実習室（1組）コンポジットレジン修復（3級・5級窩洞）	コンポジットレジン修復におけるチームアプローチを実践する。
7					模型実習 実習室（2組）コンポジットレジン修復（3級・5級窩洞）	コンポジットレジン修復におけるチームアプローチを実践する。
8					保存修復における歯科衛生士の役割	講義、実習で得られた知識、経験をもとに、保存修復における歯科衛生士の役割を説明する。
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	80%	医歯薬出版 保存修復・歯内療法	
平常点	10%		
レポート　等	5%		
小テスト	5%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

九州医療専門学校　歯科衛生士科

科　目　名	歯内療法学	学　　年	1　　年　　期生
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1単位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	2時間　×　8回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	大学歯学部での勤務経験を有する教員が、教育と臨床の経験を活かして、歯内療法学につ		

一般目標（GIO）

歯内療法学は臨床歯学の根幹となる重要な一分野であり、歯の硬組織、歯髄ならびに根尖歯周組織疾患の原因、症状、診断および治療法を理解する。これにより、歯の機能を保持し、口腔ならびに全身の健康維持に寄与するこ認識する。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					硬組織疾患と歯髄疾患	硬組織疾患と歯髄疾患の原因と症状を列記し、診断および治療法について説明できる。
2					〃	〃
3					根尖歯周組織疾患	根尖歯周組織疾患の原因と症状を列記し、診断および治療法について説明できる。
4					〃	〃
5					根管治療と根管充塡	根管治療と根管充塡の術式および使用器具について説明できる。
6					〃	〃
7					外科的歯内療法	外科的歯内療法の種類を列記し、治療法および使用器具について説明できる。
8					〃	〃
9					テスト	
10						

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	%		エンドドンティクス　第4版　永末書店　2015年
平常点	%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	歯周治療学	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	2　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4 時間×　　8 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	歯周治療の実務経験を有する教員（歯科医師）が、歯周病及び歯周治療の内容を講義し、それに関わる衛生士業務を学ぶ講義を担当する。		

一般目標（GIO）

臨床に直結する歯周治療の基礎知識を習得する。

正常歯周組織を把握したうえで、歯周病の病態を理解する。

歯周治療における歯科衛生士としての業務を理解する。

歯周病と全身疾患との関連性について理解し、患者に解りやすく説明できるようにする。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					歯周病と歯周治療の概要	歯周病と歯周治療の概要を述べる
2					正常歯周組織の構造	正常歯周組織の構造を図示して、記述する
3					歯周疾患の分類	歯周疾患を分類する
4					歯周病と全身疾患との関連性	歯周病と全身疾患を関係づける
5					歯周治療の流れ	歯周治療の流れを説明する
6					歯周組織検査	歯周組織検査を述べる
7					歯周基本治療	歯周基本治療を列記する
8					〃	歯周基本治療を説明する
9					口腔衛生指導とSRPの実際	口腔衛生指導の内容を示す
10					〃	SRPのやり方を示す
11					歯周外科手術	歯周外科手術の種類を列記する
12					〃	歯周外科手術で使用する器具を示す
13					根分岐部病変	根分岐部病変の検査と治療を説明する
14					歯内歯周病変	歯内歯周病変を説明する
15					口腔機能回復治療、メインテナンスとSPT	メインテナンスとSPTの内容を列記する
16					歯周治療における歯科衛生士の業務	歯科衛生士業務の具体的内容を説明する

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	最新歯科衛生士教本 歯周病学　第2版　医歯薬出版	新版最新歯周病学　医歯薬出版
	%		歯科衛生士のためのポケット版 最新歯科用語辞典 クインテッセンス出版
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	歯科補綴学	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	2　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4 時間×　　8 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	歯科医師の資格を有する教員が、補綴歯科学について指導する。		

一般目標（GIO）

歯科補綴学の概要を理解する上で必要な基礎知識事項を理解し、補綴歯科治療の実際を修得することである。
また、知識を習得した上で、補綴歯科治療においての歯科衛生士の位置づけを理解し、その重要な役割を認識させ目標とする。
概要：補綴歯科治療に関する基礎知識、そして治療の実際を習得することである。
また、知識を習得した上で、補綴歯科治療においての歯科衛生士の位置づけを理解し、その重要な役割を認識させることを目標とする。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					補綴歯科治療に関する基礎知識	歯科補綴学に必要な顎口腔機能を説明する。
2					〃	〃
3					歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療	高齢者の特徴を理解し、歯の欠損による顎口腔機能の変化について説明する。
4					〃	〃
5					補綴装置の種類とその構造	補綴装置の臨床的意義について、それぞれの種類・特徴の概要を説明する。
6					〃	〃
7					補綴歯科治療における検査・診断−歯科衛生士の役割	補綴治療に必要な検査・診断方法について説明できる。
8					〃	〃
9					ｸﾗｳﾝ・ﾌﾞﾘｯｼﾞの治療の実際−歯科衛生士の役割	クラウン・ブリッジの種類を学び、その特徴と適応症、臨床手順・方法を説明する。
10					〃	〃
11					有床義歯治療の実際−歯科衛生士の役割	有床義歯の種類を学び、その特徴と適応症、臨床手順・方法を説明する。
12					〃	〃
13					ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ治療の実際−歯科衛生士の役割	欠損補綴におけるインプラント治療の位置付けを説明する。インプラント治療の概要を説明する。
14					〃	〃
15					患者指導・器材の管理	患者に対する各補綴処置後の指導方法などについて説明する。
16					〃	歯科補綴処置における感染予防対策や器材の滅菌・消毒について説明する。

筆記試験	100%	医歯薬出版　歯科補綴
平常点	%	
	%	

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	歯科矯正学	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	2単位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4時間　×　8回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	歯科大学歯学部歯学科および医療短期大学衛生学科の講義・臨床実習を行い、また歯科大学医科歯科総合病院での矯正歯科治療を行っている教員が、歯科衛生士として必要な歯科矯正学についての講義を行う。		

一般目標(GIO)

目的:歯科矯正学における基礎的知識および臨床的技術、知識の理解を行い、併せて不正咬合に対する保健活動最新の矯正治療について講義する。

目標:歯科矯正学の基礎、臨床項目の理解、歯科矯正学に興味をもってもらうこと。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1					Ⅰ編:矯正歯科治療に関する基礎知識　第1章　矯正歯科治療の概要	矯正治療の目的と意義について理解する。
2					第2章　成長発育	頭蓋顎顔面の成長発育について理解する。
3					第3章 正常咬合と不正咬合 ①正常咬合	正常咬合の概念および成立の条件について理解する。
4					第3章 正常咬合と不正咬合 ②不正咬合	不正咬合の定義について述べることが出来る。不正咬合の分類法の種類と定義を理解する。
5					第4章 矯正歯科診断	矯正診断の過程を把握する。
6					第5章　矯正歯科治療と力	矯正力の性質と固定について理解する。
7					第6章 矯正装置 Ⅱ編: 矯正歯科治療の実際 第1章	矯正治療に使用する装置について装置の構造と適応症について理解する。
8					第6章 矯正装置 Ⅱ編 :矯正歯科治療の実際 第2章	矯正治療に使用する装置について装置の構造と適応症について理解する。
9					第3章　成人矯正、第4章口腔顎顔面の形成異常と変形	成人矯正および外科的矯正治療について理解する。
10					Ⅲ編:第1章　矯正歯科診断にかかわる業務	矯正診断の過程を理解し、業務内容を理解する。
11					第2章　矯正歯科診療時の業務	矯正歯科治療に用いる器材の種類と用途を理解する。る。
12					第3章　矯正歯科患者と口腔保健管理	矯正治療に使用する装置について装置の構造と適応症について把握し、口腔保健管理について理解
13					模型・セファロ分析	矯正診断に用いるセファロ分析の意義について理解する。
14					矯正治療の基本手技、矯正装置の取り扱いについて	矯正治療に使用する装置について装置の構造と適応症について理解し、指導内容を把握する。
15					第4章　口腔筋機能療法	口腔習癖と口腔筋機能療法について理解する。
16					第5章　器材、資料、文書の管理	矯正歯科治療に用いる器材の種類と用途を理解と文書管理について理解する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	医歯薬出版　歯科矯正	医歯薬出版　歯科矯正学　第6版
平常点	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(13:00～14:30)　4限目(14:40～16:10)

科　目　名	口腔外科学	学　　年	1　　年
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	2　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4時間　×　8回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	歯科医師　大学病院歯科口腔外科学講座にて勤務		

一般目標(GIO)

口腔・顎顔面領域における各種疾患及び口腔に関連した全身疾患について、基本的な知識を学習し、患者の全身状態を考慮した歯科治療を介助する上で必要な知識を理解する。全身状態の管理を含めた 麻酔学と救急蘇生についても学習する。また、口腔外科学診療に際して求められる知識の習得を目標とする。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1					総論 歯科疾患と関連する全身疾患を中心に口腔外科一般について	歯科疾患と関連する全身疾患に関して理解する
2					顎・口腔領域の先天異常と発育異常 歯の異常、口 腔軟組織の先天異常、唇裂・口蓋裂、顎の先天異常と 変形	顎・口腔領域の先天異常と発育異常について理解する。
3					顎・口腔領域の損傷および機能障害 歯の外傷、顎骨 骨折、軟組織の損傷について	顎・口腔領域の損傷および機能障害について理解する。
4					口腔粘膜の病変(1) 水疱形成、紅斑およびびら ん、潰瘍、白斑、色素沈着、それぞれを主徴とする疾 患、その	口腔粘膜の病変に関して理解し、その特徴を述べることができる。
5					口腔粘膜の病変(2) 粘膜の出血および貧血を主 徴とする疾患について	口腔粘膜の病変に関して理解し、その特徴を述べることができる。
6					顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 歯周組織の炎症、顎骨および顎骨周囲組織の炎症について	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患について理解する。
7					顎・口腔領域の嚢胞性疾患 顎骨内に生じる嚢胞、軟組織に生じる嚢胞について	顎・口腔領域の嚢胞性疾患について理解する。
8					顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 歯原性腫 瘍、非歯原性腫瘍、非歯原性悪性腫瘍前癌病変につい	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患について理解する。
9					唾液腺疾患 炎症を生じる唾液腺疾患、唾液腺腫瘍 などについて	唾液腺疾患について理解する。
10					口腔領域の神経疾患 顎関節疾患 神経痛、神経麻 痺および顎関節症などの顎関節疾患について	口腔領域の神経疾患 顎関節疾患 神経痛、神経麻 痺および顎関節症について理解する。
11					歯科治療における歯科麻酔と患者管理、局所麻酔、精 神鎮静法 全身状態の評価と患者管理および局所麻	歯科治療における歯科麻酔と患者管理、局所麻酔、精 神鎮静法 全身状態の評価と患者管理について知る
12					全身麻酔、救急蘇生法 全身麻酔および救急蘇生の ABCについて	全身麻酔、救急蘇生法 全身麻酔および救急蘇生について知る
13					口腔外科診療の実際(1)(口腔外科治療の流れ、診察と診断 他) 口腔外科治療の流れ、診察と診断、清潔と不	口腔外科治療の流れ、清潔と不潔、創傷の処置について理解する。
14					口腔外科診療の実際(2)(抜歯術、歯根端切除術) 抜歯術、歯根端切除術などの口腔外科小手術について	口腔外科小手術について知る。
15					口腔外科診療の実際(3)(口腔外科小手術、止血、縫合処置) 良性腫瘍摘出術、歯槽骨整形	口腔外科小手術および止血処置、縫合処置について知る。
16					口腔外科・歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわりと口腔外科で用いる機材について	口腔外科・歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわりと口腔外科で用いる機材について理解する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	80　%	最新歯科衛生士教本 口腔外科学	
平常点	20　%	全国歯科衛生士教育協議会 監修、	
	%		

1限目(9:00～10:30)　　2限目(10:40～12:10)　　3限目(13:00～14:30)　　4限目(14:40～16:10)

科　目　名	先端医療学	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	2年次後期～3年次前期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4 時間×　　4 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	日本口腔インプラント学会員。本校の歯科技工士科で15年以上の非常勤講師の経験と、開業して32年歯科医院での臨床経験がある講師が講義する。		

一般目標（GIO）

本科目は、インプラント治療に関する理論や根拠を学び、その手術を理解して患者への安心、安全な

インプラント治療を提供する知識、手順身につける。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					インプラント治療のアシスタントワークからメンテナンスまで	インプラントに関する基礎知識を説明することができる
2					〃	術前の消毒・滅菌・ドレーピングを説明することができる
3					〃	術後の患者対応・医療サイド編を理解することができる
4					〃	術後の患者対応・患者サイド編を理解することができる
5					インプラント手術編	インプラント埋入手術を理解することができる
6					〃	骨補填材について説明することができる
7					インプラント補綴処置編	補綴処置・セメント固定を理解することができる
8					〃	補綴処置・スクリュー固定を理解することができる
9						
10						

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	80%	歯科衛生士のための臨床インプラント講座	みるみる理解できるインプラント入門（クインテッセンス出版）
平常点	20%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

九州医療専門学校　歯科衛生士科

科　目　名	小児歯科学	学　　年	1　　年
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	2　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	2 時間×　　15 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	大学病院で実務経験のある教員が、小児歯科の講義を行う。		

一般目標（GIO）

本科目は、根拠や理論に基づいた小児歯科の実践能力を安全・的確に修得するためにその習得に必要な要素である小児歯科学の基礎と臨床を理解し、小児患者の治療時に必要な知識を身につける。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					小児歯科とは・心身の発育	小児歯科の目的と特徴を述べる。
2					〃	小児の発育について述べる。
3					小児の生理学的特徴・顔面頭蓋の発育	小児の生理的特徴について述べる
4					〃	小児の顔面頭蓋の発育について述べる。
5					歯の発育とその異常・歯列咬合の発育と異常	小児の歯の発育について述べる。
6					〃	小児の歯の発育異常について述べる。
7					小児の歯科疾患・小児期の特徴と歯科的問題点	小児の歯列咬合の発育と異常について述べる。
8					〃	小児のう蝕について述べる。
9					小児歯科における治療体系	小児のう蝕予防について述べる。
10					〃	小児の歯周疾患と軟組織疾患について述べる。
11					小児歯科における治療体系	小児患者の対応法について述べる。
12					〃	小児の歯冠修復について述べる。
13					小児歯科における治療体系	小児の歯内治療について述べる。
14					〃	小児の外科処置、歯の外傷について述べる。
15					小児歯科における治療体系	小児の咬合誘導について述べる。
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	医歯薬出版　小児歯科	永末書店、小児歯科
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	高齢・障害者歯科疾患論	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	2　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4 時間×　　8 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	H3～H24年まで歯科大学にて高齢・障害者歯科疾患の講義・実習・研究を行い、H24～開業、現在は市の介護認定審査員を有する教員が、歯科衛生士に必要な高齢障害者歯科疾患についての講義を行う。		

一般目標(GIO)

・高齢者と障害者の現状を説明できる。障害の種類を説明できる。

・加齢による身体的・精神的変化と疾患および口腔疾患について説明できる。

・高齢者と障害者の口腔ケアに対応できる。

・摂食・嚥下リハビリテーションを理解し対応できる。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1					高齢社会と健康 高齢者にかかわる法制度	高齢社会について説明できる。 介護保険制度について説明できる。
2					高齢者の特性(加齢変化)	高齢者の身体機能の老化について説明できる。 加齢に伴う各器官、各組織の老化について説明できる。
3					障害の概念	障害者の概念について説明できる。　ICF、QOL、ノーマライゼーション、バリアフリーについて説明できる。
4					障害の種類と歯科的特徴(1)	精神遅滞(知的障害)を説明できる。 ダウン症候群と発達障害を説明できる。
5					高齢者に多い疾患、特有の疾患	高齢者に多い疾患の種類と症状について説明できる。
6					高齢者に多い口腔領域の疾患 高齢者に特有な口腔疾患	高齢者に多い口腔領域の疾患と特有な口腔疾患について説明できる。
7					障害の種類と歯科的特徴(2)	脳性麻痺、筋ジストロフィー、ALSを説明できる。てんかんと重症心身障害について説明できる。
8					障害者の歯科治療	障害のある人とのコミュニケーションの方法について説明できる。
9					高齢者の生活機能の評価 高齢者歯科と臨床検査	高齢者の生活機能の評価する方法を説明できる。 高齢者の状態を把握するのに必要な検査を説明できる。
10					高齢者の栄養状態 高齢者の薬剤服用	高齢者の低栄養について説明できる。 高齢者の薬剤服用について説明できる。
11					障害者歯科医療と行動調整 医療安全管理と感染予防対策	障害者歯科で用いる行動調整法について説明できる。　医療安全管理と感染予防対策について説明できる。
12					障害者に対する口腔ケア 障害者の口腔衛生管理	障害者に対する口腔ケアについて説明できる。 障害者の口腔衛生管理について説明できる。
13					有病高齢者への口腔ケア 要介護高齢者への口腔ケア	有病高齢者への口腔ケアについて説明できる。 要介護高齢者への口腔ケアについて説明できる。
14					誤嚥と誤嚥性肺炎 在宅訪問診療と在宅での口腔ケア	誤嚥のメカニズムと誤嚥性肺炎について説明できる。在宅訪問診療と在宅での口腔ケアについて説明できる。
15					摂食嚥下のメカニズムと評価 嚥下訓練	摂食嚥下のメカニズムと評価方法について説明できる。嚥下訓練の種類と方法について説明できる。
16					障害別摂食嚥下障害への対応　食事支援と栄養管理	障害別摂食嚥下障害への対応を説明できる。 食事支援と栄養管理について説明できる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	90%	高齢者歯科(歯科衛生士教本	
平常点	10%	障害者歯科(歯科衛生士教本	
	%	医歯薬出版	
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(13:00～14:30)　4限目(14:40～16:10)

科　目　名	歯科口腔放射線論	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	前期～後期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義・実習
時間数・授業回数	2 時間×　　15 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	大学での画像診断学の講義・実習を経験する教員が歯科領域の画像検査について解説する。		

一般目標（GIO）

歯科診療において必須である口内法エックス線撮影法およびパノラマエックス線撮影法の知識と技術を習得する。

歯科医療人として標準的な歯科領域の検査法の知識を習得する。

エックス線検査のリスクについて理解し、患者への説明ができる。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					放射線の基本	放射線の性質や画像形成の基本を理解する。
2					口内法1（二等分法・平行法）	二等分法・平行法の撮影法、利点、欠点を理解する。
3					口内法2（咬合法・咬翼法）	咬合法・咬翼法の撮影法、利点、欠点を理解する。
4					パノラマエックス線撮影法	パノラマの撮影法、利点、欠点を理解する。
5					その他の口外法	セファロ、Watersなどの口外法を理解する。
6					エックス線撮影の機材と写真処理	撮影で使用する器材の構造、特徴を理解する。
7					放射線の人体への影響	放射線の人体への影響を説明できる。
8					放射線防護	放射線防護の原則および実際について説明できる。
9					撮影実習（パノラマエックス線撮影法 ）・現像実習	パノラマの撮影ができる。撮影後、画像評価ができる。
10					撮影実習（パノラマエックス線撮影法 ）・現像実習	パノラマの撮影ができる。撮影後、画像評価ができる。
11					撮影実習（二等分法・上顎）・現像実習	口内法（上顎）の撮影ができる。撮影後、画像評価ができる。
12					撮影実習（二等分法・上顎）・現像実習	口内法（上顎）の撮影ができる。撮影後、画像評価ができる。
13					撮影実習（二等分法・下顎）・現像実習	口内法（下顎）の撮影ができる。撮影後、画像評価ができる。
14					撮影実習（二等分法・下顎）・現像実習	口内法（下顎）の撮影ができる。撮影後、画像評価ができる。
15					特殊撮影(CT,CBCT,MRI,US)	歯科領域の特殊撮影について理解する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	90%	学建書院 わかりやすい歯科放射線学	
平常点	10%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	歯科予防処置論Ⅰ	学　　年	1　　年
担　当　者		期　　別	通年(前期)
単　位　数	2単位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	2時間　×　15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	歯科医院での実務経験のある専任教員		

一般目標(GIO)

・口腔の基礎知識を習得し、また、口腔の機能を理解し、歯周予防法に関する目的・情報・知識・手順を身につける。

回数	月	日	曜日	項目	行動目標(SBOs)
1				歯科予防処置の概要(課題提出)	歯科予防処置の概論を述べることができる。
2				口腔の機能(課題提出)	摂食嚥下の仕組みを概説できる。
3				口腔の基礎知識①	歯・口腔の構造と機能を説明できる。(課題①の復習)
4				口腔の基礎知識②	歯周組織の構造を説明できる。(課題②の復習)
5				口腔内の付着物と沈着物①	口腔内の付着物・沈着物の種類と成分を説明できる。とくに歯石について特徴を対比することができる。
6				歯周病①	歯肉炎と歯周炎の違いを説明することができる。
7				歯周病②	歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる。
8				口腔内の情報収集①(課題提出)	情報収集の目的や得られる情報を説明できる。
9				口腔内の情報収集②・エキスプローラー	口腔内の観察項目とポイントを列挙できる。(課題③の復習)
10				歯周ポケット①	歯周ポケット検査の意義、操作方法を述べることができる。
11				歯周ポケット②	手用スケーラーの把持法と操作方法を説明することができる。
12				ミラーテクニック・動揺度	動揺度(Mirrorの分類)を述べることができる。
13				口腔の機能的問題の把握(課題)	口臭、口腔の機能的問題の把握を評価することができる。
14				歯周疾患検査方法	顎模型上で歯周疾患検査方法を述べることができる。
15				まとめ	前期に習得したことを復習し理解することができる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	最新歯科衛生士教本歯科予防処置論	
		最新歯科衛生士教本歯周病学	
		歯科予防処置(新歯科衛生士教本)	

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(13:00～14:30)　4限目(14:40～16:10)

科　目　名	歯科予防処置実習Ⅰ	学　　年	1　　年
担　当　者		期　　別	通年
単　位　数	1単位	講義　・　実習	実習
時間数・授業回数	2時間×15回	専任　・　兼任	専任
実務経験			

一般目標(GIO)

・マネキン実習を通してシックルタイプスケーラーの手技を習得することができる。

・相互実習を通して患者、補助者、術者の立場を理解し、スケーラー操作(シックルタイプ)を習得することができる。

・フッ化物の概要、予防の手段、臨床での活用を相互実習にいおいて修得する。

・う蝕発病因子に基づきう蝕活動性試験を行い、その評価と対処を理解し臨床業務へと応用する。

・う蝕活動性(カリエスリスク)について発病の危険性と進行の可能性を理解し相互実習において患者指導を実践する

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1			2	スケーラーの把持と操作方法	把持法とスケーリングを模倣することができる。
2			2	マネキンの取り扱い	マキシラアングル・ヘッドローテーション・術者のポジショニングについて準備することができる。
3			2	基本動作・基本姿勢	手の動かし方、、ヘッドレストの設定、患者の顔の向き、姿勢について表現することができる。
4			2	基本操作	シックルタイプスケーラーの**四原則について記述**することができる。
5			2	マネキンにおけるシックルタイプスケーラー部位別実習（下顎前歯部）	スケーリング時の**固定を模倣**することができる。
6			2	マネキンにおけるシックルタイプスケーラー部位別実習（上顎前歯部）	スケーリング時の**側方圧を感じる**ことができる。
7			2	プロービング	プロービングを実施し、**ポケット底に触れる**ことができる。
8			2	エキスプローリング	エキスプローリングの**挿入方法と動かし方を模倣**することができる。
9			2	マネキンにおけるシックルタイプスケーラー部位別実習（上顎右側臼歯部）	スケーリング時の**ストロークを実施**することができる。
10			2	マネキンにおけるシックルタイプスケーラー部位別実習（上顎左側臼歯部）	スケーリング時の**正しい術者の位置・姿勢を実施する**ことができる。
11			2	マネキンにおけるシックルタイプスケーラー部位別実習（下顎右側臼歯部）	シックルタイプスケーラーを**適切に動かす**ことができる。
12			2	マネキンにおけるシックルタイプスケーラー部位別実習（下顎左側臼歯部）	シックルタイプスケーラーを**適切に操作する**ことができる。
13			2	う蝕活動性試験　(RDテスト、ミューカウント、カリオスタット、唾液量測定)	術式および患者対応について相互での実習を行う。
14			2	小窩裂溝填塞法	術式および患者対応について相互での実習を行う。 使用する機器の操作及び患者説明対応ができる。
15			2	フッ化物歯面塗付法 (トレー法、イオン導入法)	術式および患者対応について相互での実習を行う。溶液の特性、塗付後の注意について患者への説明ができる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	30%	最新歯科衛生士教本歯科予防処置	
実技試験	60%	歯科予防処置(新歯科衛生士教本)	
平常点	10%	デンタルハイジーン　これでマスタープロービング	
	%		

1限目(9:00～10:30)　　2限目(10:40～12:10)　　3限目(13:00～14:30)　　4限目(14:40～16:10)

科　目　名	歯科予防処置実習2	学　　年	1　　年
担　当　者		期　　別	通年
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	実習
時間数・授業回数	2時間 × 15コマ	専任　・　兼任	専任
実務経験	歯科医院勤務経験のある専任教員		

一般目標（GIO）

マネキン実習においてキュレットスケーラーを操作することができる

歯面研磨を的確に実施するために、必要な知識、技能、態度を修得する

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1				キュレットスケーラーの基本動作.操作方法	キュレットスケーラーの挿入・適合・操作を模倣することができる
2				マネキン部位別実習（下顎前歯部）	マネキンにおけるGキュレットスケーラーの側方圧を感じることができる。
3				マネキン部位別実習（上顎前歯部）	マネキンにおけるGキュレットスケーラーの側方圧を工夫することができる。
4				マネキン部位別実習（下顎右側臼歯部）	マネキンにおけるGキュレットスケーラーの口腔外固定を実施することができる。
5				マネキン部位別実習（下顎左側臼歯部）	マネキンにおけるGキュレットスケーラーの操作角度を模倣することができる。
6				マネキン部位別実習（上顎右側臼歯部）	マネキンにおけるGキュレットスケーラーの水直、斜め、水平ストロークを実施することができる
7				マネキン部位別実習（上顎左側臼歯部）	マネキンにおけるGキュレットスケーラーのストロークを工夫することができる。
8				キュレットスケーラーの復習（全顎）	Gキュレットスケーラーの操作角度を理解し、実施することができる。
9				キュレットスケーラーの復習 歯面清掃・歯面研磨	マネキンにおいて、歯面研磨を的確に実施するために必要な知識、技能、態度を修得する。
10					
11				シャープニング	Gキュレットスケーラーの形態を理解しシャープニングを実施することができる。
12					
13				口腔内写真	口腔内写真撮影を行う上での口腔内写真撮影に必要な基本的知識を修得する。口腔内の状態を明確に記録することができる。
14					
15					

評価基準		教科書	参考書
実技試験	70%		
実習点	30%		

科　目　名	歯科予防処置実習3	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	通年
単　位　数	2単位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4時間 × 15コマ	専任　・　兼任	専任
実務経験	医療短期大学専攻科で口腔保健学学士を取得後、臨床経験を積み、歯科衛生士に必要な歯科診療補助について実習を行う。		

一般目標（GIO）

キュレットスケーラー及び超音波スケーラーの特徴を理解したうえで、臨床における適切な技術を修得する。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					マネキン実習	マネキンにおいて、超音波スケーラーの種類と特徴を理解したうえで実施することができる。
2						
3					相互実習（超音波スケーラー）	超音波スケーラーの種類と特徴を理解したうえで実施することができる。
4						
5					相互実習（下顎前歯部）	グレーシーキュレットスケーラーにおいて的確なスケーリングを実施することができる。（下顎前歯部）
6						
7					相互実習（上顎前歯部）	グレーシーキュレットスケーラーにおいて的確なスケーリングを実施することができる。（上顎前歯部）
8						
9					相互実習（下顎右側臼歯部）	グレーシーキュレットスケーラーにおいて的確な挿入角度でスケーリングを実施することができる。（下顎右側臼歯部）
10						
11					相互実習（下顎左側臼歯部）	グレーシーキュレットスケーラーにおいて的確な挿入角度でスケーリングを実施することができる。（下顎左側臼歯部）
12						
13					相互実習（上顎右側臼歯部）	グレーシーキュレットスケーラーにおいて的確な操作角度でスケーリングを実施することができる。（上顎右側臼歯部）
14						
15					相互実習（上顎左側臼歯部）	グレーシーキュレットスケーラーにおいて的確な操作角度スケーリングを実施することができる。（上顎左側臼歯部）
16						

評価基準	教科書	参考書
筆記試験　70　％ 平常点　30　％ ％ ％	最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論	最新 歯科衛生士教本 歯周病学

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	歯科予防処置実習4	学　　年	3　　年
担　当　者		期　　別	通年
単　位　数	1単位(30時間)	講義　・　実習	実習
時間数・授業回数	2時間×9回/4時間×3回	専任　・　兼任	専任
実務経験	大学病院での臨床経験を積み、歯科衛生士に必要な歯科診療補助について実習を行う。		

一般目標(GIO)

・キュレットスケーラー及び超音波スケーラーを使用できるようになり、臨床に即した相互実習を熟練させる。

・う蝕予防処置学習の集大成として臨床現場を想定して相互実習を行うことを目標とする。

・歯科衛生士が行うう蝕予防処置(う蝕活動性試験)を理解し相互実習において患者指導を実践する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				模擬患者実習前練習	超音波スケーラー実習を通してフェザータッチを感じることができる。
2				歯周基本治療	歯周組織の破壊程度の診査方法と情報収集を始めることができる。
3				歯周病検査	アッタッチメントレベル・ゲイン・ロスを理解することができる。
4				模擬患者実習	歯周病患者に対する歯科予防処置や歯科保健指導を実施することができる。
5				↓	↓
6				校内相互実習	デブライドメントとSPTを熟練することができる。
7				↓	↓
8				校内相互実習	トンネリング/ルートトランクに触れることができる。
9				↓	プラークリテンションファクターを触診することができる。
10				考察	患者の口腔内の現状を列記し、表現することができる。
11				問診・記録のとり方	医療面接
12				歯科衛生過程	歯科衛生過程の演習を討議することができる。
13				口腔内診査(問診・歯式)相互実習	患者情報の聞き取り全身及び、口腔内の状況把握を相互で実習を行う。
14				フッ化物応用相互実習	術式および患者指導について相互での実習を行う。
15				う蝕活動性試験相互実習	術式および患者指導について相互での実習を行う。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	最新歯科衛生士教本歯科予防処置	ヒューフレディ　スケーラーやキュレットのハンドシャープニングの方
	%	最新歯科衛生士教本歯周病学	口腔保健協会「日本におけるフッ化物製剤」
	%	歯科予防処置(新歯科衛生士教本)	社会保険研究所「フッ化物局所応用マニュアル」
	%	ベーシックグレーシーキュレットテクニック	

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(13:00～14:30)　4限目(14:40～16:10)

科　目　名	歯科予防処置(う蝕)	学　　年	1　　年
担　当　者		期　　別	通年
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	2H・8回	専任　・　兼任	専任
実務経験			

一般目標(GIO)

う蝕の発生とその予防について理解する。

フッ化物の概要、予防の手段、臨床での活用について理解する。

う蝕発病因子に基づきう蝕活動性試験を行い、その評価と対処を理解し臨床業務へと応用する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				う蝕予防の基礎(う蝕の特性)	う蝕の段階とそれぞれの特性について説明できる。
2				う蝕予防の基礎 (う蝕病因論、発生と進行)	う蝕の発生と病因について説明できる。う蝕の進行とその予防法について説明できる。
3				フッ化物について (利点と問題点、急性・慢性中毒)	フッ化物使用における予防効果、問題点に対し分析できる。 急性、慢性中毒を理解し使用後の注意事項を説明できる
4				フッ化物の応用 (予防分類、使用薬剤について)	予防の概念に基づきう蝕予防のレベルを説明できる。フッ化物局所応用における使用薬剤の特徴を説明できる。
5				フッ化物の応用 (フッ化物歯面塗付、フッ化物洗口)	フッ化物歯面塗付における術式、使用器材、薬剤を説明できる。フッ化物洗口における概要、術式、使用薬剤を説明できる。
6				小窩裂溝填塞法(シ―ラント)について	小窩裂溝の形態を理解し、シ―ラントの対象歯、術式を説明できる。
7				その他のフッ化物応用について	セメント系填塞材、フッ化物バーニッシュ、フッ化ジアンミン銀の特性と応用について説明できる。
8				う蝕活動性試験 (概要、各種試験、臨床的応用)	う蝕の発生と進行においてリスクの説明ができる。各因子における活動性試験を行い臨床での活用方法を説明できる。
9					
10					
11					
12					
13					
14					

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%		

九州医療専門学校　歯科衛生歯科

科目名	う蝕予防処置実習	学年	2　年
担当者		期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	2　時間　　X　15回	専任・兼任	専任
実務経験			

一般目標（GIO）

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1				う蝕予防処置復習	
2				フッ化物塗布実習①	術式および患者対応について実習を行うことができる。
3				フッ化物塗布実習②	溶液の特性、塗付後の注意について患者へ説明ができ
4				フッ化物塗布実習③	使用する機器の操作及び患者説明対応ができる。
5				フッ化物塗布実習④	フッ化物配合歯磨剤の効果的な使い方を実践できる。
6				う蝕活動性試験相互実習①	RDテストの術式および患者対応について相互での実習を行うことができる。
7				う蝕活動性試験相互実習②	ミューカウント、カリオスタットの術式および患者対応について相互での実習を行うことができる。
8				う蝕活動性試験相互実習③	唾液量を測定し、相互での実習を行うことができる。
9				う蝕活動性試験相互実習④	う蝕活動性試験の評価に基づき予防法を身につけることができる
10				小窩裂溝填塞法の基礎知識	小窩裂溝填塞の種類と特徴を理解することができる
11				小窩裂溝填塞法の操作方法①	レジン系小窩裂溝填塞法の術式を理解することができる
12				小窩裂溝填塞法の操作方法②	セメント系小窩裂溝填塞法の術式を理解することができ
13				小窩裂溝填塞法相互実習①	器具、薬剤の取り扱いと管理方法を理解することができ
14				小窩裂溝填塞法相互実習②	小窩裂溝填塞後の指導を行うことができる
15				まとめ	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	50%		
実技試験	60%		

九州医療専門学校　歯科衛生歯科

科目名	歯科保健指導論Ⅰ	学年	1　年
担当者		期別	前期
単位数	2単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2　時間　×　15　回	専任・兼任	専任
実務経験			

一般目標（GIO）

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					歯科保健指導の概要	歯科保健指導の概要を説明することができる
2					口腔の基礎知識	歯式・歯の構造について理解することができる
3					口腔衛生管理に関わる指導 歯ブラシの基礎知識	歯ブラシの種類・構造について理解することができる
4					ブラッシング方法の知識と技術①	毛先を使用する方法について説明することができる
5					ブラッシング方法の知識と技術②	脇腹を使用する方法について説明することができる
6					補助的清掃器具の知識と技術①	補助的清掃器具について種類を説明することができる
7					補助的清掃器具の知識と技術②	補助的清掃器具の使用方法が分かる
8					歯磨剤の基礎知識	歯磨剤の知識を習得することができる
9					洗口液・洗口剤・保湿剤の基礎知識	洗口液・洗口剤・保湿剤の知識を習得することができる
10					口腔機能管理に関わる指導	対象者に指導する知識を習得することができる
11					生活習慣の指導	生活習慣病について知識を習得することができる
12					口腔衛生指導　選択と指導①	口腔衛生指導に関わる選択と指導ができる
13					口腔衛生指導　選択と指導②	口腔衛生指導に関わる選択と指導ができる
14					分析のためのデータ	歯科保健指導の分析ができる
15					まとめ	
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	###		

九州医療専門学校　歯科衛生歯科

科目名	歯科保健指導論Ⅱ	学年	1　年
担当者		期別	後期
単位数	2単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2　時間　×　15　回	専任・兼任	専任
実務経験			

一般目標（GIO）

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					食生活指導のための基礎知識	
2					栄養素①	
3					栄養素②	
4					食品とう蝕誘発性①	
5					食品とう蝕誘発性②	
6					保健行動支援のための基礎知識	
7					ライフステージにおける歯科衛生介入①	
8					ライフステージにおける歯科衛生介入②	
9					ライフステージにおける歯科衛生介入③	
10					ライフステージにおける歯科衛生介入④	
11					ライフステージにおける歯科衛生介入⑤	
12					ライフステージにおける歯科衛生介入⑥	
13					ライフステージにおける歯科衛生介入⑦	
14					配慮を要するものへの歯科衛生介入①	
15					配慮を要するものへの歯科衛生介入①	
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	###		

九州医療専門学校　歯科衛生歯科

科目名	歯科保健指導論Ⅲ	学年	2　年
担当者		期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2　時間　　X　8回	専任・兼任	専任
実務経験			

一般目標（GIO）

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1				歯科衛生過程の進め方　概要	歯科衛生過程の思考プロセス
2				歯科衛生アセスメント	歯科衛生上の問題解決に必要な情報を見出すことができる
3				歯科衛生診断	診断句、原因句に分けて歯科衛生診断文の作成ができ
4				歯科衛生計画	短期目標と長期目標の歯科衛生計画立案を作成できる
5				歯科衛生介入（実施）	立案した計画の実施ができる
6				歯科衛生評価・記録	歯科衛生介入におけるアウトカム評価ができる
7				症例別歯科衛生過程①	グループワークの発表①
8				症例別歯科衛生過程②	グループワークの発表②

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%		

九州医療専門学校　歯科衛生歯科

科目名	歯科保健指導実習Ⅰ	学年	1　年
担当者		期別	通年
単位数	1単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	2　時間　×　15　回	専任・兼任	専任
実務経験			

一般目標（GIO）

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					歯垢染色剤の知識と技術	歯垢染色剤の知識を習得することができる
2					口腔衛生指導実習①	歯垢染色剤の使用方法が分かる
3					口腔衛生指導実習②	対象者へ口腔衛生指導ができる
4					口腔衛生指導実習③	対象者へ口腔衛生指導ができる
5					口腔衛生指導実習④	対象者へ口腔衛生指導ができる
6					口腔衛生指導実習⑤	対象者へ口腔衛生指導ができ評価することができる
7					口腔衛生指導実習⑤	対象者へ口腔衛生指導ができ評価することができる
					テスト	
8					地域保健活動における健康活	
9					地域歯科保健活動のフィールド	
10					地域歯科保健活動の実践①	
11					地域歯科保健活動の実践②	
12					地域歯科保健活動の実践③	
13					地域歯科保健活動の実践④	
14					地域歯科保健活動の実践⑤	
15					地域歯科保健活動の実践⑥	
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	40%		
実技試験	60%		

科　目　名	歯科保健指導実習	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	通年
単　位　数	1単位(30時間)	講義　・　実習	実習
時間数・授業回数	2時間 × 15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	歯科医院勤務経験のある専任教員		

一般目標(GIO)

対象者の年齢や環境における、ライフステージごとの口腔衛生指導案を作成する。また、指導案の解釈・分析を行い歯科衛生士計画を立案する能力を養うことを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				新入生に対しての歯科保健指導	
2				地域歯科保健活動(2年生歯と口の健康週間)	新入生に対し、今まで学んだ歯科保健指導の知識・技術で指導を行うことができる。
3				生活習慣予防による栄養指導	小学校・幼稚園等の集団に対して、染め出し・指導を行うことができる。
4				配慮を要する者への歯科衛生介入	新入生に対し、今まで学んだ歯科保健指導の知識・技術で指導を行うことができる。
5				学齢期の歯科衛生介入	障がい者、要介護者への歯科保健活動を行うことが出来る。
6				成人期での一般的介入と管理法	
7				老年期での食支援と管理法	
8				認知症の栄養指導と支援	
9				口腔健康管理について	口腔保健管理について説明できる。口腔健康管理における歯科衛生士の役割について説明できる。
10				口腔衛生管理について	口腔衛生管理について説明できる。口腔衛生管理を行うにあたり対象者の情報収集を行うことができる。
11				相互実習	口腔衛生管理と口腔ケアの違いを理解したうえでスポンジブラシの操作法並びに介助磨きを行うことができる。
12				口腔機能低下症について	口腔機能低下症について説明できる。
13				訓練法	対象者に応じた直接訓練及び間接訓練、機能訓練が説明できる。
14				ケアプラン及びレクレーション作成	対象者に応じた歯科衛生計画を立案できる。
15				ケアプラン及びレクレーション発表	症例に応じた口腔介護計画を発表できる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	60%	歯科予防処置論　歯科保健指導論 (医歯薬出版)	歯科衛生士のための摂食嚥下・口腔保健管理 保健生態学・高齢者歯科・障害者歯科・小児歯科・セルフケアの本 ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策⑤(医歯薬出版) 改定歯ブラシ辞典(学健書院)
実技試験	30%		
チャート	10%		
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(13:00～14:30)　4限目(14:40～16:10)

九州医療専門学校　歯科衛生士科

科　目　名	栄養指導	学　　年	1　　年
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	2単位(+調理実習)	講義　・　実習	講義・実習
時間数・授業回数	2時間　×　15回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	筑紫女学園大学・精華短大・福岡市医師会看護学校・筑紫医師会看護学校・アカデミー看護学校・糖尿病外来の栄養指導の経験を有する教員が、歯科衛生士に必要な栄養学について講義する		

一般目標(GIO)

栄養学は健康に生きていく上での生命維持に最も深い関わりを持っている。栄養素の消化・吸収・代謝及びその調整を中心に学ぶ教科である。食生活上の改善を必要とする対象者に対して施す具体的な指導方法を熟知することにある。食品のう蝕誘発性及び歯科臨床の場において栄養指導の必要性について学ぶ。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1					食生活と疾患との関係	現代の食生活の問題点について
2					栄養素の消化・吸収	栄養の基礎知識について
3					食事摂取基準	エネルギーの必要量の求め方、脂肪エネルギー比率
4					基礎代謝	基礎代謝量の求め方及び影響する因子
5					栄養素の働き	糖質について
6					栄養素の働き	タンパク質について
7					栄養素の働き	脂質について
8					栄養素の働き	ビタミンについて(欠乏症等)
9					栄養素の働き	ミネラルの作用と欠乏、過剰症など
10					水の栄養的意味	働き・代謝
11					食物繊維の栄養的意味	働き・摂取量と給源
12					食生活と健康	食生活の変遷と疾患構造の変化について
13					食生活改善の取り組み	食事環境、計画
14					ライフステージ別の栄養	成長期・成人期・高齢期の栄養調理の特性
15					食べ物と健康	食品成分表の分類、食べ物の物性について
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	80%	人体の構造と機能　栄養と代謝	
平常点	20%	(医歯薬出版)	
	%		

1限目(9:00～10:30)　2限目(10:40～12:10)　3限目(13:00～14:30)　4限目(14:40～16:10)

科　目　名	歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱ	学　　年	1　　・3　　年
担　当　者		期　　別	通年(前期)
単　位　数	2　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	2時間 × 15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	九州大学病院で臨床経験を積み、歯科衛生士に必要な歯科診療補助について講義を行う。		

一般目標(GIO)

歯科診療における歯科衛生士の役割を理解し、歯科診療補助に必要な基礎的知識を習得する。
歯科診療で使用する歯科材料・器具の取り扱いについて理解する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				歯科診療補助の概念　①	歯科診療補助の業務内容と歯科診療室における設備を理解する。
2				歯科診療補助の概念　②	歯科診療補助の業務内容を説明することができる。
3				医療安全と感染予防の概念	歯科診療における医療安全と感染予防について理解
4				スタンダードプレコーション・感染経路	スタンダードプレコーションを具体的に
5				ヒヤリハット・アクシデント・AEDの取り扱い	歯科診療における共同動作・ポジショニングについて理解する。
6				グローブ・マスク装着と着脱の手順	グローブの装着・着脱を実施することが出来る。
7				手指消毒の手順	手指消毒の目的を理解し、実施することが出来る。
8				滅菌・消毒の使用方法①	滅菌と消毒の定義を理解することができる。
9				滅菌・消毒の使用方法②	滅菌・消毒・洗浄の方法について理解することができる。
10				医療廃棄物の取り扱い	感染性廃棄物の分類と分別を説明することができる。
11				歯科治療で注意すべき感染症	歯科医療における感染症の概念とその対策を説明することができる。
12				歯科診療における基礎知識①	歯科診療室の環境、設備について説明することができ
13				歯科診療における基礎知識②	歯科用器材に応じた滅菌・洗浄・消毒を実施することができる。
14				歯科診療補助見学①	歯科診療における共同動作について理解する。
15				歯科診療補助見学②	歯科診療におけるポジショニングについて理解する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 (医歯薬出版株式会社)	最新歯科衛生士教本 歯科材料 (医歯薬出版株式会 最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法 (医歯薬出版株式会社)

九州医療専門学校　歯科衛生歯科

科目名	歯科診療補助実習Ⅰ	学年	1　年
担当者		期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	2　時間　×　15　回	専任・兼任	専任
実務経験			

一般目標（GIO）

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					歯科衛生材料の基礎知識と取り扱い	歯科診療補助を行う上での身だしなみについて理解する
2					歯科衛生材料作製①	歯科衛生材料の知識を習得することができる
3					歯科衛生材料作製②	歯科衛生材料を作成することができる
4					歯科診療で扱う歯科材料　アルジネート印象材の基礎知識	歯科診療で扱う歯科材料の種類を習得することができる
5					歯科診療で扱う歯科材料　石膏の基礎知識	歯科診療で扱う歯科材料の知識を習得することができる
6					印象練和実習①	アルジネートの特性を理解することができる
7					印象練和実習②	アルジネートの特性を生かし練和することができる
8					印象採得実習①	印象採得の器具を準備することができる
9					印象採得実習②	アルジネートの特性を生かし印象採得が行える
10					印象採得相互実習①（コラボ実習）	歯科診療補助を見学し体験することができる
11					印象採得相互実習②（コラボ実習）	歯科診療補助の歯科衛生士の動きを習得することができ
12					印象採得相互実習③（コラボ実習）	歯科診療補助に必要なものを理解することができる
13					印象採得相互実習④（コラボ実習）	歯科診療補助を見学し評価することができる
14					模型作製①	歯科診療で扱う歯科材料の種類を習得することができる
15					模型作製②	石膏の種類を述べることができる
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	###		

九州医療専門学校　歯科衛生歯科

科目名	歯科診療補助実習Ⅱ	学年	1　年
担当者		期別	後期
単位数	2単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	2　時間　×　30　回	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院で臨床経験を積み、福岡医療短期大学専攻科にて口腔保健学学士を取得。歯科衛生士に必要な歯科診療補助について実習を行う。		

一般目標（GIO）

歯科診療で頻繁に使用する歯科材料の取り扱いについて技術を習得する。
歯科診療で使用する歯科材料・器具の取り扱いについて理解する。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					寒天印象採得の基礎知識	寒天印象採得の基礎知識を説明することができる。
2					寒天印象採得の補助・採得実習	寒天印象とアルジネート印象の連合印象採得するための知識・手順・技術を習得することができる。
3					合成ゴム印象材の基礎知識	合成ゴム印象材の基礎知識を説明することができる。
4					合成ゴム印象採得の補助実習	合成ゴム印象採得するための知識・手順・技術を習得することができる。
5					その他の印象材の補助、ワックスの基礎知識	その他の印象材の補助、ワックスの基礎知識を説明することができる。
6					合着・接着剤の基礎知識と種類	合着・接着剤の基礎知識と種類を説明することができる。
7					合着・接着剤の練和実習・余剰セメントの除去	合着・接着剤の練和と余剰セメントの除去を習得することができる。
8					仮封・仮着の基礎知識と種類	仮封剤・仮着材の基礎知識と種類を説明することができる。
9					仮封・仮着の実習	仮封剤・仮着材の練和・取り扱いを習得することができる。
10					綿栓の基礎知識	綿栓の基礎知識を説明することができる。
11					綿栓作製	歯内療法における綿栓の用途を理解し作製することができる。
12					歯科診療における基礎知識①	歯科診療室の環境・設備について説明することができる。
13					歯科診療における基礎知識②	歯科診療室の環境・設備について説明することができる。
14					診療補助オリエンテーション	校内実習室の設備・取り扱いについて理解することができる。
15					診療補助オリエンテーション	校内実習室の設備・取り扱いについて理解することができる。
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	40%	最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第2版（医歯薬出版株式会社）	最新歯科衛生士教本　歯科機器（医歯薬出版株式会社）　最新歯科衛生士教本　歯科材料（医歯薬出版株式会社）　最新歯科衛生士教本　歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法（医歯薬出版株式会社）最新歯科衛生士教本　顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔（医歯薬出版株式会社）
実技試験	50%		
実習態度	10%		

九州医療専門学校　歯科衛生歯科

科目名	歯科診療補助実習Ⅱ	学年	1　年
担当者		期別	後期
単位数	2単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	2　時間　×　30　回	専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院で臨床経験を積み、福岡医療短期大学専攻科にて口腔保健学学士を取得。歯科衛生士に必要な歯科診療補助について実習を行う。		

一般目標（GIO）

歯科診療で頻繁に使用する歯科材料の取り扱いについて技術を習得する。
歯科診療で使用する歯科材料・器具の取り扱いについて理解する。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
16					歯科診療における受診の流れ	歯科診療における患者対応を説明することができる。
17					共同作業①	歯科用器材に応じた共同作業について説明することができる。
18					共同作業②	歯科用器材に応じた共同作業について説明することができる。
19					共同作業の実践①	共同作業におけるチェアユニットの操作・適切なポジショニングを実施することができる。
20					共同作業の実践②	共同作業における適切なライティング・フォーハンドテクニックに基本動作を実施することができる。
21					器具の受け渡しの基礎知識	器具の受け渡しの基礎知識について説明することができる。
22					器具の受け渡しの実践①	器具の取り扱いや受け渡しを模倣することができる。
23					器具の受け渡しの実践②	器具の取り扱いや受け渡しを模倣することができる。
24					歯科診療補助実習①	染め出し・ブラッシング指導を実施することができる。
25					歯科診療補助実習②	染め出し・ブラッシング指導を実施することができる。
26					歯科診療補助実習③	口腔内を観察し、歯周検査を実施することができる。
27					歯科診療補助実習④	口腔内を観察し、歯周検査を実施することができる。
28					歯科診療補助実習⑤	器具の取り扱いや受け渡しを実施することができる。
29					歯科診療補助実習⑥	相互実習においてアルジネート印象採得と患者への対応を実施することできる。
30					歯科診療補助実習⑦	相互実習においてアルジネート印象採得と患者への対応を実施することできる。
					テスト	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	40%	最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第2版（医歯薬出版株式会社）	最新歯科衛生士教本　歯科機器（医歯薬出版株式会社）　最新歯科衛生士教本　歯科材料（医歯薬出版株式会社）　最新歯科衛生士教本　歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復・歯内療法（医歯薬出版株式会社）最新歯科衛生士教本　顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔（医歯薬出版株式会社）
実技試験	50%		
実習態度	10%		

九州医療専門学校　歯科衛生歯科

科目名	歯科診療補助実習Ⅲ	学年	2
担当者		期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	2　時間　　X　15回	専任・兼任	専任
実務経験			

一般目標（GIO）

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1				歯科領域に必要な臨床検査	歯科領域に必要な臨床検査を挙げることができる
2				画像検査	正常なエックス線画像を読み取ることができる
3				画像検査実習	口外法撮影の準備をすることができる
4				画像検査実習	口内法撮影の準備をすることができる
5				薬品・歯科材料の管理	歯科治療に必要な薬品を管理することができる。
6				保存修復時の診療補助①	窩洞の分類ができ、保存修復治療の特徴・術式・使用器具を理解することができる。
7				保存修復時の診療補助②	コンポジットレジンインレー修復に必要な器材を準備することができる。
8				保存修復時の診療補助③	保存修復治療に必要な使用器具を準備することができる。
9				歯内療法時の診療補助①	抜髄に必要な使用器具を準備することができる。
10				歯内療法時の診療補助②	根管充填に必要な使用器具を準備することができる。
11				歯内療法時の診療補助③	覆髄法に必要な使用器具を準備することができる。
12				小児歯科治療時の診療補助①	不正咬合による患者指導ができる
13				小児歯科治療時の診療補助②	発育状態の評価ができる
14				歯肉圧排実習①	歯肉排除の手順を理解し、必要な器材の準備がで
15				歯肉圧排実習②	歯肉排除の手順を理解し、パステクができる

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%		

九州医療専門学校　歯科衛生歯科

科目名	歯科診療補助実習Ⅲ-2	学年	2　年
担当者		期別	後期
単位数	2単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	時間　X　30回	専任・兼任	専任
実務経験			

一般目標（GIO）

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1				ラバーダム防湿の基礎知識	ラバーダム防湿における歯科衛生士の役割について理解できる。
2				ラバーダム防湿実習①	ラバーダム防湿に必要な器具を準備することができる
3				ラバーダム防湿実習②	ラバーダム防湿の受け渡しをスムーズに行うことができる
4				口腔外科時の診療補助①	口腔外科治療の術式に沿って器具・器材を準備することができる。
5				口腔外科時の診療補助②	口腔外科治療の術式に沿って器具・器材を準備することができる。
6				矯正治療時の診療補助①	不正咬合の分類がわかり、患者ごとに必要なプライヤーを選択することができる
7				矯正治療時の診療補助②	矯正歯科診断に必要な検査の準備をすることができる
8				歯周外科治療時の診療補助①	歯周外科治療の特徴・術式・使用器材を理解することができる。
9				歯周外科治療時の診療補助②	歯周外科治療の使用器材を準備することができる。
10				補綴治療時の診療補助①	補綴治療の術式・使用器具を理解することができる。
11				補綴治療時の診療補助②	義歯調整の器材を準備することができる。
12				補綴治療時の診療補助③	歯科補綴治療(クラウン・ブリッジ)の使用機材を準備することができる。
13				補綴治療時の診療補助④	歯科補綴治療(クラウン・ブリッジ)の特徴・手順・使用機材を理解することができる。
14				歯科麻酔時の診療補助	歯科麻酔の特徴・種類、取り扱いを述べ準備することができる。
15				まとめ	歯内療法の特徴・術式・使用器材を理解することができる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	50%		
実技試験	50%		

科　目　名	歯科臨床検査法	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	通年
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義・実習
時間数・授業回数	2 時間×　　15 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	臨床検査技師・糖尿病療養指導士・細胞検査士の資格を有する教員が、歯科衛生士に必要な臨床検査の講義を行う。		

一般目標（GIO）

歯科衛生士としてヒトの病態を臨床検査といるエビデンスをもって知ることが出来るように、臨床検査の基本的知識と病気を持つ患者に対応する上で必要な態度と技術を修得する。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					臨床検査とは	臨床検査の意義と歯科衛生士の役割について説明する。
2					生体検査（体温・脈拍・血圧他）	体温・脈拍・血圧等の意義について説明し測定方法を述べる。
3					生体検査実習（血圧・脈拍）	脈拍・血圧測定の実習を行う。
4					肝機能検査（尿検査）	腎機能検査（尿検査）と疾患について説明する。
5					尿スクリーニング検査実習	尿スクリーニング検査（試験紙法）の実習を行う。
6					血液検査	血液を用いる検査の種類と血液学的検査について説明できる。
7					血液凝固線溶系検査	血液凝固・線溶検査と疾患について説明できる。
8					生化学検査（肝機能検査）	肝機能検査と疾患について説明できる。
9					免疫・血清学的検査	免疫・血清学的検査と疾患について説明できる。
10					血液型検査	血液型検査について説明することができる。
11					血液型検査実習	血液検査（ABO式）の実習を行う。
12					感染症検査・病理検査	感染症検査・病理検査と疾患について説明できる。
13					貧血と検査	貧血の種類と特徴および検査について説明できる。
14					糖尿病と検査	糖尿病の分類と特徴および検査について説明できる。
15					血糖自己測定検査実習	血糖自己測定検査の実習を行う。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	90%	医歯薬出版　臨床検査	
平常点	10%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	麻酔・救急蘇生法	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4 時間×　　4 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	歯科麻酔を経験した歯科医師が基本知識と方法等を講義する。		

一般目標（GIO）

歯科で用いる局所麻酔法、精神鎮静法、全身麻酔法，局所麻酔法について理解し、安全な歯科治療を行うた必要な全身疾患と救急蘇生の基本的知識を修得する。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					局所麻酔法	局所麻酔法の目的、薬剤の種類、使用法を説明する。
2					精神鎮静法	精神鎮静法の目的、薬剤の種類、使用法を説明する。
3					全身麻酔法	全身麻酔法の目的、薬剤の種類、使用法を説明する。
4					バイタルサイン	バイタルサインの種類を説明する。
5					歯科治療と全身状態の変化	歯科治療中の全身状態の変化を説明する。
6					全身疾患への対応	歯科治療に影響を及ぼす全身疾患と対応を説明する。
7					歯科における偶発症と対応	歯科治療時に起こりうる偶発症について説明する。
8					救急蘇生の目的と方法	救急蘇生の目的と方法を説明する。
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	90%	医歯薬出版	
平常点	10%	口腔外科・歯科麻酔	
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

九州医療専門学校　歯科衛生士科

科　目　名	歯科材料学	学　　年	1　　年
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	2 時間×　　8 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	歯科大学にて教授の経験のある教員が歯科治療おける歯科材料の役割と取扱い方について講義する		

一般目標（GIO）

臨床に役立つ歯科材料学を身につけるために、歯科材料の種類、素材、用途、基礎的性質（機械的性質、物理的性質、化学的性質、生物学的性質、安全性など）や取扱い方を理解し、臨床に役立つ歯科材料学の知識を修得する。

	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					歯科用材料の基礎知識	歯科用材料を類別し、それらの素材、用途や特徴を記述する。
2					歯科用材料の性質	材料の機械的性質、物理化学生物学的性質の違いを記述する。
3					印象材と模型材	各種印象材と各種種石膏の成分、用途、特徴および操作方法を記述する。
4					歯科接着・合着の理論と技法	合着・接着理論を述べ、各種技法を記述する。
5					合着用と仮着用セメント	各種合着用及び仮着セメントの成分、用途や特徴を記述する。また、各材料の操作方法も説明する。
6					接着材と接着処理材	各種接着材の成分や特徴を記述する。また、接着処理材の効果も記述する。
7					修復材料と小窩裂溝封鎖材	各種修復材と各種小窩裂溝封鎖材の成分、用途、特徴および操作方法を記述する。
8					仮封材と暫間修復材	各種仮封材と各種暫間修復材の成分、用途、特徴および操作方法を記述する。
9					テスト	
10						

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	90%	医歯薬出版　歯科材料	学建書院　スタンダード歯科理工学　ー生体材料と歯科材料ー
平常点	10%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

九州医療専門学校　歯科衛生士科

科　目　名	感染予防学	学　　年	1　　年
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	2 時間×　　8 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	医科総合病院の勤務経験を有する口腔外科専門医が，歯科における感染対策の現状と問題点を講義する		

一般目標（GIO）

講義，実習を通して，標準予防策を理解し，基本的な感染対策を習得し実践できるようにする．また，歯科臨床に
となる全身状態や感染症を理解し，配慮すべき事項を説明できる，院内の整理整頓をおこない，医療廃棄物を適
処理できることを目標とする．

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					序論　歯科診療の特殊性と感染対策	感染対策の必要性と歯科衛生士の役割を認識する．
2					感染予防対策の基本・感染のハイリスク患者	標準予防策を理解する．歯科診療において問題となる代表的な疾患と感染のハイリスク患者をしる．
3					歯科診療における感染予防対策の基本と実際	標準予防策を理解し，実践できる．
4					手洗い・グローブ・ガウン装着実習	手指衛生及び個人防護具の着用を体験する．
5					滅菌・消毒・洗浄の基本と実際①	器材の滅菌法，再処理法を理解する
6					滅菌・消毒・洗浄の基本と実際②	各種消毒薬の特徴と正しい使い方を理解する
7					口腔ケアの意義/アメニティと環境整備/医療従事者の感染予防対策/廃棄物の処理	医療従事者の感染予防対策を知る．また，口腔ケアの重要性を認識する．環境整備と廃棄物の処理法について理解する．
8					総括	標準予防策を正しく理解し，実践できる．
9					テスト	
10						
11						
12						

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	80%	医歯薬出版 新・歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄	絵でみる　色でわかる　歯科の院内感染防止対策 （月間保団連 臨時増刊号 No.1272 2018）
平常点	20%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	臨地実習	学　　年	2　　年
単　位　数	1単位(45時間)	評価基準	実習状況　100%

実習計画

1　実習期間　　5月～6月(8日間)※予定

歯と口の健康週間　幼稚園・保育園・小学校(低学年・中学年・高学年)

2　実習目標　　今後、各ライフステージに合わせた公衆衛生活動の計画・立案が出来るようになるために園児・児童等への歯磨き指導実習を通して、その能力を修得する。

3　実習項目

・園児・児童とのコミュニケーション

・ライフステージに合わせた口腔保健指導

・ライフステージに合わせた歯科保健指導案の作成

・歯と口の健康週間に関する知識

・指導教材の作成および活用

・年齢に応じたう蝕予防法

・普及啓発

科　目　名	臨床実習	学　　年	2　　年
単　位　数	7単位(315時間)	評価基準	実習状況　100%

実習計画

1　実習期間　　5月～6月(8日間)※予定

①解剖実習見学　(1日)

②九州大学病院実習　　1月20日～3月18日(7H×41日間)(予定)

2　実習目標

①講義で学んだ知識をもとに歯学部で実施されている解剖実習の遺体を観察し、人体の構造の認識と理解を深め臨床に活かす。また解剖学・組織発生学の知識とともに統合的に人体の正常構造を理解し基礎医学・臨床医学の基本を理解しつつ、生命と死、献体の意義を考え、医の倫理について各自が意識し考えることができる。

②大学病院各科で専門性を生かした高度な実践教育を行い、基礎実習で学んだ知識や技術を臨床の場であらゆる場面で応用できる技術を身につけることができる。また、歯科医療従事者としての認識を持ち必要な知識・行動を身につけ、医療の現場において、他職種と協働する能力を身につけることができる。

3　実習項目

②(1)歯内治療科　(2)歯周病科　(3)咬合補綴科　(4)義歯補綴科　(5)　矯正歯科　(6)口腔総合診療科
(7)高齢者・全身管理歯科　(8)顎顔面口腔外科　(9)スペシャルニーズ歯科・小児歯科

・各科オリエンテーション
・清潔・不潔域の区別
・治療開始前の準備と治療後の片付け
・各科での必要な器具・器材の準備、診療補助の方法
・各種器材・薬剤・材料の特徴と使用法
・患者さんへの対応
・口腔衛生指導の手順やポイント
・診査(PCR)・TBI・歯面研磨
・インプラント手術見学
・メインテナンス
・プロービング・スケーリング・PMTC
・有病者の歯科治療
・口腔ケア支援のための病棟往診見学
・術前後に患者に対して行う説明と指導

科　目　名	臨地実習	学　　年	3　　年
単　位　数	1単位(45時間)	評価基準	実習状況　100%

実習計画

1　実習場所・期間　　5月～10月(予定)

①若楠療育園(4日間)　　③保健センター(1日)

②中原支援学級(1日)　　④特別養護老人ホーム(4日間)

※上記実習場所・期間は変更の場合がある

2　実習目的

①障害者施設で、歯科衛生士が他職種と連携をとり、口腔機能向上における支援を専門職としてどう関わりながら、個々の障害に合った個別支援を行うために、必要な情報収集・病状の把握・支援・技能および知識を修得する。

②養護教員から個々の障害に合ったケアや援助の方法を学び、個々のニーズに合った支援計画の立案をし、実行することを目的とする。

③1歳半・3歳児検診での見学を通して、児童の発達段階および日常生活行動について理解し、口腔の管理を行うために必要な知識・技能および態度を身につける。また、個々に合った歯科保健指導ができる様、日頃からのコミュニケーションを含め人との接し方や観察するための能力を身につけることができる。

④高齢者施設の利用者を捉え、病状を把握し、情報収集・分析・処置・予防管理を行うために必要な臨床技法および知識を習得する。また他職種との連携における歯科衛生士の役割を学び理解することができる。

3　実習項目

①・障害に合った歯科診療の補助　・特別な支援が必要な疾患の理解　・障害別コミュニケションの方法
・障害者本人と介助者が行う口腔ケア　・リスク評価と安全管理　　・摂食嚥下リハビリテーション

②・指導教材の作成および活用　・個々の障害に合った口腔ケアプラン作成と実施
・個々の障害に合ったコミュニケーション

③・時期に合った幼児と保護者への歯科保健指導　・行政での歯科衛生士の役割
・幼児と保護者のコミュニケーション

④・口腔介護アセスメント表の作成　・食事介助および摂食嚥下などの口腔機能状態の把握
・専門的口腔ケアの実施　・口腔機能維持・向上支援のためのための健口体操の実施
・集団口腔リハビリの実施　・口腔ケアプランの作成・記録・評価

科　目　名	臨床実習	学　　年	3　　年
単　位　数	11単位(495時間)	評価基準	実習状況　100%

実習計画

1　実習場所　　歯科診療所　・　久留米大学病院　等

2　実習期間　　5月 ～10月　(原則74日以上)

3　実習目標

3年次の臨床実習では、より実践的な知識・技術を学ぶとともに、地域社会での歯科衛生士の有り様を現場で学ぶ。

各歯科医院の流れを把握し、医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解し実践的な知識・技術を体得する。

4　実習項目

・診療室内の環境整備　　・患者誘導　　・使用器具・器材・材料の準備と後片付け

・診療補助(バキューム・ライティング・器具の受け渡し)

・各種検査記録　　・印象採得介助と補助・自験　　・各種セメントと仮封剤の取り扱い　　・歯肉マッサージ

・口腔内写真の補助　　・PCTとPMTC　　・う蝕予防処置補助(シーラント・フッ化物塗布)

・スケーリング　　・TBIおよび保健指導　　・レントゲン補助

・各診療補助業務の術式確認　　・外科処置の補助・見学　　・

科　目　名	医療事務管理者2級	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	通年
単　位　数	2単位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	2時間　×15回	専任　・　兼任	専任
実務経験	診療報酬請求事務資格所持の専任教員が歯科請求事務について解説する。		

一般目標（GIO）

本科目では歯科医療保険の知識及び診療報酬について学び、診療報酬明細書(レセプト)を作成することを目標とする。
歯科医療に関連する各種保険について理解する。

歯科診療報酬について理解し、医療保険の仕組みを習得する。

歯科診療報酬に基づき保険点数の算定及び診療報酬明細書(レセプト)を作成する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1				歯科医療事務の基礎	口腔の仕組みと保険請求について述べる。
2				基本診療料について	初診・再診・カルテ及びレセプトの略称について説明する。
3				保険請求事務1	傷病名・充填・処置について具体的な請求を説明する
4				保険請求事務2	エックス線各種撮影方法について保険請求を説明する。
5				保険請求事務3	管理料・実地指導料について保険請求を説明する。
6				保険請求事務4	歯内療法について具体的な保険請求を説明する。
7				保険請求事務5	歯冠修復について具体的な保険請求を説明する。
8				保険請求事務6	乳幼児の点数について具体的な保険請求を説明する
9				保険請求事務7	歯周疾患について具体的な保険請求を説明する。
10				保険請求事務8	手術について具体的な保険請求を説明する。
11				保険請求事務9	投薬について具体的な保険請求を説明する。
12				保険請求事務10	義歯について具体的な保険請求を説明する。
13				練習問題1	症例において保険請求を行いレセプトの作成ができる
14				練習問題2	症例において保険請求を行いレセプトの作成ができる
15				練習問題3	症例において保険請求を行いレセプトの作成ができる

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	医歯薬出版「歯科診療報酬入門」 医歯薬出版「歯科保険請求マニュアル」	
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	摂食機能訓練	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	2　　単　位	講義　・　実習	講義・実習
時間数・授業回数	2 時間×　　15 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	療養型病院:5年　　急性期・回復期病院11年		

一般目標(GIO)

摂食・嚥下障害を有する対象者へ効果的なリハビリテーションを実施するために、摂食・嚥下リハビリテーショ医学の知識及び技術を修得する。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1					口腔・咽頭・喉頭領域の構造	摂食嚥下に関わる解剖を習得する。
2					摂食・嚥下運動における顎口腔系	摂食嚥下に関わる機能を習得する。
3					スクリーニング検査・精密検査	摂食嚥下障害の各種評価表を説明する。
4					口腔機能検査	摂食嚥下関連器官の形態と機能の評価について説明する。
5					摂食嚥下の5期・摂食嚥下に関わる因子　加齢が及ぼ	成人と高齢者の摂食・嚥下機能と障害について説明する。
6					機能的口腔ケアの重要性	摂食嚥下リハビリテーションにおける口腔ケアについて説明する。
7					病態に対応した間接訓練	摂食嚥下障害に対する間接訓練を説明する。
8					病態に対応した直接訓練	摂食嚥下障害に対する直接訓練を説明する。
9					機能発達の過程、小児の特徴	小児の摂食嚥下機能の発達の概要とその障害の特徴について説明する。
10					グループワーク	症例について討議する。
11					摂食嚥下障害と栄養の関係	摂食嚥下障害がある人の栄養摂取方法について説明する。
12					リスクマネージメント	摂食嚥下リハビリテーションのリスクマネージメントについて説明する。
13					摂食嚥下訓練の評価と訓練立案	摂食嚥下リハビリテーションの進め方について説明する。
14					まとめ	摂食嚥下障害の全体的知識を習得する。
15					プレテスト	摂食嚥下障害に関する問題を解く。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	%	医歯薬出版	
平常点	%	歯科衛生士のための摂食嚥	
	%	リハビリテーション　第2版	
	%		

1限目(9:00～10:30)　　2限目(10:40～12:10)　　3限目(13:00～14:30)　　4限目(14:40～16:10)

科　目　名	リハビリテーション概論	学　　年	3　　年
担　当　者		期　　別	前期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4 時間×　　4 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	理学療法士として勤務経験を有する教員がリハビリテーションについて講義を行う		

一般目標（GIO）

リハビリテーションは「全人間的復権」を意味する言葉であり、医療的介入を示すものではない。本講義では、リハビリテーションの意味および疾患により生じた障害に対する心理的変化を解説する。リハビリテーションの4領域、関連職種および医療制度について解説する。また、リハビリテーションの実際について紹介する。

本講義の目的：解説を理解し、説明することができる。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					1.リハビリテーションの概念・定義・歴史	リハビリテーションの概念、定義を述べる。
2					2.障害と障害へのアプローチ	リハビリテーションの対象疾患となる障害像を説明できる。
3					3.障害と心理、受容について	障害による患者の心理変化を感じる。また、障害受容の課程を述べる。
4					4.リハビリテーションの4領域について	リハビリテーションの4領域のそれぞれの特徴について説明する。
5					5.日常生活活動（ADL）、生活の質（QOL）	日常生活活動および生活の質の概念およびその評価方向について述べる。
6					6.ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門職種とその役割	リハビリテーションに係わる専門職種の違いについて説明する。
7					7.ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに係わる医療制度	医療制度の中におけるリハビリテーションの概況を述べる
8					8.演習および復習、まとめ	これまでに修得した知識をもとにディスカッションを行い、討議し、意見をまとめ表現する。
9						
10						

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	%		
平常点	%		
	%		
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	医学概論	学　　年	3　　年
担　当　者		期　　別	2年後期～3年前期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4 時間×　　4 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	歯科大学において33年間解剖学（骨、筋、消化器系、泌尿器系、生殖器系、脈管器系、内分泌系、神経系）、組織学（同左）、口腔組織学と歯牙解剖学の講義と実習を担当した。テーマ別講義ではヒト初期発生の形態形成、基礎う蝕学、摂食嚥下、咬合の科学と歯周病の科学を担当した。		

一般目標（GIO）

口腔はは摂食、咀嚼、嚥下、消化、呼吸、構音、味覚など生命維持の基本的機能を持つ臓器であり、消化器系の一部でもある。本科目においては口腔は全身疾患とも関連が深いことを理解し、各臓器の疾患の概要を臓器の構造と合わせて修得する。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1					代謝・内分泌疾患	なぜ歯科衛生士に全身疾患の知識が必要かを述べる。 ①糖尿病、②骨粗鬆症、③甲状腺疾患の概要について説明する。
2					消化器疾患	①胃食道逆流症GERD，②胃炎・胃癌 ③胃潰瘍・十二指腸潰瘍、④肝炎・肝硬変の概要について説明する。
3					循環器疾患	①心疾患・不整脈、②高血圧症・低血圧症の概要について説明する。
4					血液疾患、呼吸器疾患	①貧血、②白血病、③血友病の概要について説明する ①肺炎、②気管支喘息、③慢性閉塞性肺疾患COPD ④結核、⑤睡眠時無呼吸症候群の概要について説明する
5					腎・泌尿器疾患、、免疫疾患・膠原病	①腎疾患、②下部尿路疾患：蓄尿障害、排尿障害の概要について説明する。 ①アレルギー②膠原病、③シェーグレン症候群、④アトピー性皮膚炎の概要について説明する。
6					感染症	①インフルエンザ、②カンジダ症、③後天性免疫不全症候群、AIDSの概要について説明する。
7					神経疾患、精神疾患	①脳血管障害、②てんかん、③認知症、神経難病：パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症の概要について説明する。 ①心身症・神経症、②うつ病、③統合失調症、④発達障害の概要について説明する。
8					がん、産科・婦人科疾患	①がん、②頭頸部がんの概要について説明する。 ①妊娠による身体の変化、②更年期障害の概要について説明する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	医歯薬出版	
平常点	%	歯科衛生士のための全身疾患	
	%	ハンドブック	

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）

科　目　名	看護概論	学　　年	2　　年
担　当　者		期　　別	後期
単　位　数	1　　単　位	講義　・　実習	講義
時間数・授業回数	4 時間×　　4 回	専任　・　兼任	兼任
実務経験	医療機関での経験を積んだ看護学校教員が担当する		

一般目標（GIO）

1・病気における歯科衛生士の役割を理解し、看護師との連携を理解する

2・歯科衛生士が知っておくべき看護の意義及び看護の機能、看護の対象者を理解する

3・歯科衛生士が知っておくべき看護技術や必要な看護の対象者を理解する

4・地域医療活動における歯科衛生士の役割を理解する

回数	月	日	限目	項目	行動目標（SBOs）
1				病院における歯科衛生士の役割	歯科衛生士の活動の場・医療チーム一員としての看護師との連携の内容を説明する
2				看護とは何か	看護の理念と定義・職業として看護変遷・看護対象者の内容を説明する
3				歯科衛生士が知っておくべき看護技術	バイタルサイン＝呼吸・体温・脈・血圧を関係づけを述べる
4				看護の対象者	看護の対象者のケアのビデオを使用し理解を深め、バイタルサインに関連づけた表現で記述する
5				歯科衛生士が知っておくべき看護技術	摂食・吸引・吸入の関連を述べる
6				歯科衛生士が知っておくべき看護技術	コミュニケーション=聞く・聴く・聴く・観る・見るの演習を通して表現を実施する
7				歯科衛生士が知っておくべき必要な看護実務	病院外来業務や入院患者の看護・救急時看護の関連を述べる
8				地域医療活動や在宅医療における歯科衛生士の役割	地域社会・保健・医療・福祉チーム連携を述べ、訪問看護生活指導・訪問口腔指導・訪問時の接遇マナーを述べる
9					
10					

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	80%	医歯薬出版	看護学イントロダクション　医学書院
平常点	%	歯科衛生士のための看護概論	基礎看護科学　　医学書院
VTR学習のレポート提出	20%		在宅看護　　医学評論社
	%		

1限目（9:00～10:30）　2限目（10:40～12:10）　3限目（13:00～14:30）　4限目（14:40～16:10）